

事業提案書

令和7年12月18日

滑川市長 宛て

提案者 所在地 東京都港区六本木
4-5-7studioD301
事業者名 株式会社 Synk Prot
代表者氏名 谷山 拓也

滑川市企業版ふるさと納税活用地域活性化等推進補助金について、次のとおり事業を実施したいので、関係書類を添えて事業を提案します。

なお、この事業が採択された場合は、滑川市のホームページ等により、この事業に係る提案者、内容、事業費等が公表されることを了承します。

提案事業の名称	ホタルイカのまち“滑川”デジタルストーリーツーリズム推進事業	
地域再生計画の該当事業	滑川市まち・ひと・しごと創生推進計画 <input type="checkbox"/> 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業 <input checked="" type="checkbox"/> 安心な暮らしを守るとともに、新たなひとの流れが生まれる魅力的なまちをつくる事業 <input type="checkbox"/> 新しいしごとが生まれ、安心して働けるまちをつくる事業 <input type="checkbox"/> 未来技術を活用し地域課題を解決する事業	
実施期間	2026年 4月 1日 から 2027年 3月 31日 まで	
提案事業の概算事業費	(1) 計画事業費	7,336 千円
	(2) 計画事業費のうち 必要最低補助額 <small>※規模の縮小、自己財源等により事業の実施が可能となる最低限必要である補助金の目安額を記載してください。</small>	3,497 千円
添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 事業提案計画書 <input checked="" type="checkbox"/> 収支予算書	

注1 提案事業が採択された場合に、「提案事業の計画事業費」のうち、「概算事業費のうち必要最低補助額」に記載された額まで、企業版ふるさと納税が集まった場合は、提案事業に関し、補助金交付に向けた予算措置等の手続に進む想定となるものです。

事業提案計画書

提案事業の名称	ホタルイカのまち“滑川”デジタルストーリーツーリズム推進事業
地域再生計画の名称及び事業の名称	安心な暮らしを守るとともに、新たなひとの流れが生まれる魅力的なまちをつくる事業
提案事業の内容	<p>本提案は、ホタルイカ観光に偏りがちな季節型観光を通年型へ転換し、地域経済の平準化と地域ブランド価値の向上を目指すものである。公民連携と企業版ふるさと納税制度を活用し、デジタル技術と地域資源を組み合わせた持続可能な観光モデルを構築する。</p> <hr/> <p>【施策の目的】 通年で来訪者を呼び込み、ほたるいかミュージアムを中心に観光効果を波及させる。そのために、デジタル発信・体験提供・回遊設計を統合的に行う。</p> <hr/> <p>【施策の柱（3本立て）】 ① 認知・興味づくり：SNSと映像による継続的な情報発信 ② 来訪動機・体験提供：AR絵本ラリーによる体験と物語性の強化 ③ 回遊・地域還元：回遊導線と特典連動による地域経済波及</p> <hr/> <p>【施策パッケージ（3施策構成）】 1. SNS年間運用 通年での情報発信体制を構築し、ユーザー生成コンテンツ（UGC）の誘発を図る。 編集方針や投稿カレンダーを策定し、季節・天候・イベントなどに応じた柔軟な発信を行う。 目的は認知拡大と興味喚起、さらには市外・若年層へのリーチ強化である。 2. 宿場街プロモーション映像（PV）制作 来訪動機の醸成と地域ブランディングの強化をするため、地域の物語を映像化する。縦動画などマルチメディア対応の制作を行い、SNSや観光サイトで多面的に展開する。 3. AR絵本ラリー 周遊促進と体験価値の向上のため、市内の観光スポット7か所にARを活用した物語体験を設置する。</p>

	<p>ホタルイカをはじめとした地域資源など、地元の題材をもとにした「探訪型デジタル絵本」とし、スタンプや特典連動、季節替わりコンテンツなどでリピート促進を図る。</p>
提案事業の実施による公益的な効果	<p>本事業は、滑川市の基幹観光資源である「ホタルイカ」を中心に、地域の文化・産業・生活を横断的に結びつけることで、地域全体の活力向上と持続可能なまちづくりを実現するものである。</p> <p>単なる観光促進にとどまらず、教育・経済・文化・環境の各側面において公益的な波及効果をもたらすことを目的とする。</p> <hr/> <p>① 地域経済の活性化と持続可能な雇用創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節偏重だった観光需要を通年化し、地元商店街・飲食業・宿泊業などへの安定的な経済波及効果をもたらす。 ・地元企業や商店が参画する仕組みを通じて、地域内経済循環と雇用維持を支援する。 ・企業版ふるさと納税による財源確保により、自治体負担を抑えた持続的な観光振興モデルを構築する。 <hr/> <p>② 文化・観光資源の保全と発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AR 絵本ラリーや映像制作を通じて、滑川の文化・産業・生活などを次世代に継承する。 ・観光地としての情報発信力を高め、地域ブランド「ホタルイカのまち滑川」を全国・に広く発信する。 ・伝統とデジタル技術の融合により、地域文化を現代的な形で再解釈し、持続的な価値創出につなげる。 <hr/> <p>③ 若年層・ファミリー層への教育的効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AR 絵本ラリーを通じて、子どもや家族連れが楽しみながら学べる地域教育コンテンツを提供する。 ・「探す・感じる・学ぶ」体験型観光により、地域学習やふるさと教育の機会を創出する。 ・地域団体との連携により、地域愛着と次世代育成の促進につながる。 <hr/> <p>④ 公民連携による地域マネジメントモデルの確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業・金融機関等が参画することで、行政単独では難しいスピードと柔軟性を確保する。 ・データ分析（AR・SNS・来訪動線）を活用したエビデンス型政策を推進し、他地域へのモデル展開も可

	<p>能とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民協働による運営を通じ、地域課題解決型の地方創生モデルを全国に発信する。 <hr/> <p>⑤ 環境・地域調和への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存施設を中心に回遊導線を設計し、新規インフラ整備を最小限に抑える低環境負荷のまちづくりを実現。 ・ デジタルコンテンツを活用した集客により環境に優しい観光形態（スマートツーリズム）を促進する。 <hr/> <p>【まとめ】</p> <p>本事業は、「地域経済 × 教育 × 文化 × DX」を一体化した公民連携プロジェクトとして、滑川市の地方創生の方向性（住み続けられるまちづくり・観光と産業の両立）と合致する。</p> <p>デジタル技術を活用しながら地域資源の魅力を再発掘し、市民・企業・行政が共に育てる新しい公共価値を創出する。</p>
対象者、人数、規模等	<p>【対象者】</p> <p>主対象：子・親・祖父母の三世代ファミリー。</p> <p>情報接点：SNS（20～30代）を主ターゲットに設計。</p> <p>導線想定：ほたるいかミュージアム来訪者を起点に、AR 絵本ラリーと特典連動で地域周遊を促進。</p> <p>【規模・範囲（運営スコープ）】</p> <p>実施エリア：市内5～8スポット（AR 常設）。</p> <p>運営期間：通年（季節に合わせ2～3回コンテンツ更新）。</p> <p>制作物：PV 1 本、SNS 投稿 月 10 本×12 か月＝120 本／年。</p> <p>【体制】</p> <p>市（許認可・広報連携）／店舗（特典提供・受入）／制作運営（SNS 運用、AR 制作・保守、計測・月次報告）</p> <p>測定方法：QR／AR 完走記録、特典引換、導線上チェックポイント通過（重複排除・匿名集計）。</p> <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AR 利用者：2,000 人（絵本発行数）
想定スケジュールと内容	<p>前提：PV 1 本／SNS 月 10 本（120 本／年）／AR 絵本ラリー 5～8 スポット常設</p> <p>2026 年</p> <p>4 月 立上げ・設計・撮影</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キックオフ、KPI・計測仕様最終合意 ・ SNS:アカウント設計(4/1-4/15) → 4/16-4/30

	<p>で5月分10本の素材・予約準備</p> <ul style="list-style-type: none"> • PV：企画・絵コンテ・許認可 → 本撮影（下旬・1-2日＋予備1日） • AR：スポット最終決定・台本/演出確定・実装開始・現地プレテスト（公開は5月）
5月	<p>同時ローンチ</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS：月10本 運用開始（5/1-） • PV：編集→ 本編公開（下旬／GW後）（短尺はSNSで再投下） • AR：正式公開（5/1-）、完走判定・引換オペ開始 • 到達率を週次改善、ダッシュボード稼働
6月	<p>平準化</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS：映え×食×手軽さを柱に月10本 • AR：UI微調整・読み込み最適化 • 雨天時の屋内・短距離ルートを明示／月次レポート①
7月	<p>夏休み前テコ入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS：家族事例・回遊モデルコース特集 • AR：立ち位置ガイド追記／追加サインで離脱点補正／月次レポート②
8月	<p>繁忙期運用</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS：時差投稿（混雑分散）・リール強化 • AR：スキャン率・完走率の現地チェック→即時是正／月次レポート③（ヒートマップ）
9月	<p>検証強化</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS：UGC活用・参加者の声編集回 • AR：遷移演出の微調整・軽量化／月次レポート④
10月	<p>秋ブースト</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS：夕景・秋グルメで回遊誘起、PVは既存素材を短尺再編集して再配信 • 現地：回遊MAPの可読性改善、案内コピーの見直し／月次レポート⑤
11月	<p>連休ブースト</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS：来訪前→現地→回遊の3段階導線を強化（テンプレ運用） • 現地：整列導線・掲示最適化／週次KPIで即時改善／月次レポート⑥
12月	<p>冬期対策</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNS：短距離コース・屋内休憩・温かい飲食訴求 • AR：低温環境での挙動確認／月次レポート⑦
2027年	

	<p>1 月 維持運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現地：サイン耐候チェック・差替 ・ SNS：新年訴求・三世代おでかけ導線／月次レポート⑧ <p>2 月 総括準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ KPI 精査（流入・到達率・AR 完走・投稿別 CVR） ・ SNS：年度ハイライト・再訪喚起／月次レポート⑨（総括ドラフト） <p>3 月 年次総括・次年度設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年次報告：流入数／到達率／AR 完走／特典 CV／SNS 指標 ・ 次年度差替計画（スポット／サイン／クリエイティブ）・予算/KPI 再設定 ・ SNS：春休み前の予告配信
必要最低補助額で事業を実施する場合の概要	<p>【必要最低補助額で事業を実施する場合の概要（SNS＋AR 絵本ラリーのみ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS 運用：週 1 投稿×12 か月＝年間約 52 本（20～30 代向け／映え・特典・回遊導線を重点訴求） ・ AR 絵本ラリー：4 スポット常設（季節差し替えなし／通年同一コンテンツ） ・ 導線設計：ミュージアム出口に参加導線（QR・サイン）→地域周遊を促進 ・ 計測：QR／AR 完走／特典引換を匿名集計（重複排除）、月次サマリーのみ <p>【KPI】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AR 利用者：2,000 人（絵本発行数） <p>【体制】</p> <p>市（許認可・広報連携）／店舗（特典提供・受入）／制作運営（SNS 運用、AR 制作・保守、計測・月次報告）</p>
備考	

注 1 「提案事業の内容」は、できるだけ詳細に記載してください。必要に応じて、図式化した参考資料等を、別紙で添付してください。

2 「必要最低補助額で事業を実施する場合の概要」は、「提案事業の内容」と比較して、必要最低補助額で実施する場合の内容の違い(規模の縮小の程度、自己財源による実施の場合の内容等)を記載してください。